

- * 「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。」(ヨハネ5 : 39) イエスが救い主キリストであることを証言している最も重要なものは聖書(旧約聖書)である。旧約聖書にはキリストが来られること、その方はどのような方であるかが300箇所以上に預言されている。旧新約聖書は、人間の救いのために神自身の靈感によって書かれた書物であり、誤りがなく、信頼がおけるものである。旧約聖書は1万7千もの写本が残っているといわれ、全39巻が完全に残っているもので一番古いものは、紀元1008年のものである。
- * イエスがキリストであること、そのキリストが来られることは、代表的な箇所だけでも次のところで預言されている。
創世記3 : 15 (原福音と呼ばれる、罪からの解放)、申命記18 : 18 ~ 19 (同胞イスラエルの民の中からモーセのような預言者が現れる) IIサムエル7 : 12 ~ 16 (ダビデの家系からとしえの王国を継ぐ者が現れる) イザヤ7 : 14、ミカ5 : 2 (キリストはインマヌエルと呼ばれ、全世界の救い主) イザヤ53章 (キリストは苦難のしもべ) 詩篇16 : 10 (キリストはよみがえって永遠に生きる) ダニエル7 : 13 (人の子は雲に乗って来る)。旧約聖書に預言されているキリストがイエスによって実現したのである。
- * しかし、ユダヤ人たちは信じるができなかった。その理由は、「互いの榮譽は受けても、唯一の神からの榮譽を求めないあなたがたは、どうして信じることができますか。」(ヨハネ5 : 44) 人から褒められることばかりに関心が向き、神に褒められることは二の次になっていた。彼らは神を愛すると言いながら、実際は自分自身を愛していたのである。そのような者には、いくら聖書を読んでも、いくら聖書の知識があっても、真実はわからない。キリストが現れても気が付かない、認めないのである。聖書を読む時には、心を神に向けて開け放していなければ聖霊が働かない。私たちに対しても言われていることである。
- * 「もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。しかし、あなたがたがモーセの書を信じないのであれば、どうしてわたしのことばを信じるでしょう。」(ヨハネ5 : 46 ~ 47) 律法の書を書いた偉大な預言者モーセ。ユダヤ人が望みを置き、尊敬していた。そのモーセが書いたのはイエス・キリストのことであった(ヨハネ1 : 44 ~ 45参照)。今の私たちにははっきりとキリストが証されている新約聖書が与えられていることを感謝したい。